

# 赤松小三郎講演会のご案内

2024年  
11月4日  
(月・振替休日)



赤松小三郎  
上田市立博物館蔵

## 演題 「赤松小三郎から見た江戸時代」 講師 田中優子氏 (前法政大学総長)

幕末、信州上田藩士 赤松小三郎は、二院制議会を含む先進的な憲法草案（グランドデザイン）を起草し、その実現に努力するとともに、京都で開いた洋学塾などで多くの英才を育てました。

### 第一部 基調講演(14:10~15:15)

#### 「赤松小三郎から見た江戸時代」

講師 田中優子氏 (前法政大学総長)



横浜市生まれ。1980年法政大学大学院博士課程修了（日本文学専攻）。法政大学社会学部教授。2014~21年まで法政大学総長。現在、同大学名誉教授、同大学江戸東京研究センター特任教授。

主な著書：『江戸の想像力』1986年、『江戸百夢』2000年、『布のちから 江戸から現代へ』2010年、『グローバル化の中の江戸』2012年、『遊廓と日本人』2021年、他多数。

#### 講師からひとこと

江戸時代には幕末に約270の藩があった。ほとんどの人々はその中の集落（村）に暮らしていた。村に「村長」はいなかった。

庄屋（名主）、組頭、百姓代の3人体制だった。彼らに住民の意見を伝えるための組織は「寄り合い」つまり議会である。寄り合いは合議に至るまで徹底的に話し合う機関であったが、決まらなければ入札（選挙）が行われた。村には、日々の仕事を行うために年齢や性別や機能によって「組」「衆」「講」「結」など少数の組織が組まれており、そこで互いに決めることも、重要な役割をした。江戸時代には頻繁に「一揆」が起きたが、これは参加者全員が署名し、要求を文書化し、それを相手に渡す、という手順が決まっていた。

この250年間続いた方法を、近代民主主義に活かすはずである。幕末に赤松小三郎などが提案したことは、天皇制中央集権ではない別の道を開いた可能性がある。学校制度も含め、西欧のやり方に合わせるのではない日本を、改めて考えてみたいと思う。

### 第二部 パネルディスカッション(15:30~16:30)

#### 「赤松小三郎と江戸の民主主義」

パネリスト 田中優子氏 (前法政大学総長) 関良基氏 (拓殖大学教授) 橋本真吾氏 (北里大学講師)

幕末の騒乱期、欧米の民主主義思想は、当時の知識人たちにどのように受容されていったのかを提起し、それが江戸時代の「寄り合い」や全員一致の村落社会の伝統と接合する可能性があったのではないかという点を探ります。そして、赤松小三郎は異端児として、時勢から孤立して議会制度を叫んでいたわけではなく、日本独自の民主主義を生み出した可能性をパネル討論します。

#### 関良基氏 (拓殖大学教授)



1969年信州上田生まれ。京都大学大学院農学研究科博士課程修了。博士(農学)。主な著書に『社会的共通資本としての森』(宇沢弘文氏との共著、東京大学出版会)『赤松小三郎ともう一つの明治維新』『江戸の憲法構想』(作品社)など。

#### 橋本真吾氏 (北里大学講師)



1987年東京都生まれ。東京工業大学大学院社会理工学研究科博士課程修了。博士(学術)。著書に『近世後期日本における対米観の形成と展開』(2024)。江戸時代に生まれた「共和」という言葉の源流など、民主主義概念の形成過程を研究している。

日時；2024年11月4日(月 振替休日) 講演14:00~16:30(受付開始13:30)

会場；日比谷図書文化館 地下1階コンベンションホール(裏面案内図ご参照)

参加費；1,000円(当日会場受付にて申し受けます)

定員；200名(先着順 お早めにお申し込みください)

お申込は

赤松小三郎研究会事務局 (Eメールで事前のお申し込みをお願いいたします)

Eメール：[oosakajou@msn.com](mailto:oosakajou@msn.com)

(お名前、ご住所、本講演会をお知りになったきっかけなどご記入ください)

(提供いただく個人情報は講演会の案内などの目的で適正に取扱うとともに、目的外利用はいたしません)

主催 上田高等学校関東同窓会赤松小三郎研究会



## 赤松小三郎【天保2年(1831年)～慶応3年(1867年)】

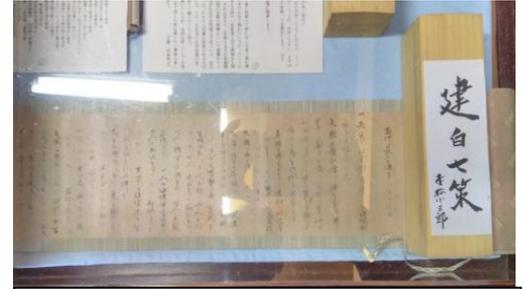
幕末の信州上田藩士。江戸に出て内田弥太郎、下曾根金三郎に師事し、数学、天文、測量、暦学、蘭学、砲術を学ぶ。その後勝海舟に入門し、その侍として長崎海軍伝習所で航海術などを学ぶ。さらに横浜で英国士官アプリンから英語、英国兵法などを習う。

幕末の京都で開いた私塾や薩摩藩邸、会津藩邸で洋式兵学を教えた。諸藩より学ぶ門下生の数、800余名。その中には東郷平八郎元帥、上村彦之丞大将など日清、日露戦争で活躍した諸将が含まれる。薩摩藩島津久光侯の委嘱により「重訂 英国歩兵練法」を翻訳した。

慶応3年5月、前政事総裁職（前福井藩主）の松平春嶽侯、島津久光侯及び幕府に建言した「建白七策」は、今後の政体構想と国家のグランドデザインを描いたもので、政治史のなかで輝いている。

天幕一和、諸藩一和のもと上下二局の議政局により内憂外患のこの時期を乗り切る方策を模索し、西郷隆盛や徳川慶喜への働きかけを行うなど、最後まで東奔西走したが、明治維新直前の慶応3年9月、京都において弟子の薩摩藩士桐野利秋らにより暗殺された。享年37。

上田市（上田城跡公園内）に赤松小三郎記念館がある。



建白書複製（赤松小三郎記念館）  
原資料は鹿児島県歴史史料センター  
黎明館蔵



### ■会場のご案内

〒100-0012

東京都千代田区日比谷公園 1-4

日比谷図書文化館（地下1階）

日比谷コンベンションホール

（大ホール）（旧 日比谷図書館）



都営地下鉄 ● 三田線「内幸町駅」A7出口／徒歩3分  
東京メトロ

● 丸の内線 ● 日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口／徒歩3分

● 千代田線「霞ヶ関駅」C4出口／徒歩3分

JR「新橋駅」日比谷口（SL広場）徒歩10分

※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。